

# 令和7年度第10回 感染症発生動向調査協議会

## 議事概要

1 日時 令和8年1月21日(水) 14:00～

2 場所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

### 3 出席者

委員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)  
川本 典生(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)  
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 院長)  
高橋 義人(岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長)  
オブザーバー : 市原 拓(岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長)  
事務局 : 松尾 孝和(感染症対策推進課 感染症対策監)  
酢谷 奈津(感染症対策推進課 感染症対策係長)  
松岡 真史(感染症対策推進課 技術主査)  
野池 真奈美(保健環境研究所 主任専門研究員)  
吉田 菜穂(保健環境研究所 専門研究員)

### 4 議題 (進行:馬場委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) その他(感染症対策推進課から)

### 5 議事概要

#### 【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。
- ・(委員より)結核について、2024年はピークが80歳代であったのに対して、2025年は20歳代が最も多くなっています。発症者自体は80歳代が多く、20歳代はほぼ半数が潜在性結核感染症の患者となっており、年代別に見ても飛び抜けて多くなっています。接触者検診を契機に見つかる人がほとんどのことですが、早い段階で患者を見つけるために、引き続き(外国籍の)若者を引き受ける機関への啓発が必要だと思えます。
- ・(委員より)2025年は百日咳の報告が大変多く、2024年と比べると100倍以上の患者が出ています。社会に影響を与える可能性があることが起こっていると考えられ、若年者、乳児への対策を含め、国でもワクチンなどについて議論が進められていると思えます。
- ・(委員より)梅毒もここ数年増えていきますので、啓発だけではなく何か対策を考えなければならないのではないかと考えます。侵襲性肺炎球菌感染症も1.2倍くらいの増加率となっていますが、肺炎球菌ワクチンの宣伝なども最近減っていますので、改めて啓発が必要なのではないかと思いました。

- ・(委員より) インフルエンザは48週をピークに下がっており、52週は注意報レベルに下がったことになりましたが、1月に入ってから少し増えていますか。
- ・(事務局) 増えています。
- ・(委員より) 診療現場でも1月に入ってからB型が増えていて、岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスシステムでもB型が優位になり全体を押し上げています。シーズン後半はB型が流行することが多くなりますし、本来のインフルエンザの流行シーズンは毎年この後ですので、警戒感を持っています。
- ・(事務局より) ARIの病原体検出結果にもインフルエンザB型が出てきています。
- ・(委員より) 新型コロナウイルス感染症は少ない状況で推移しています。警戒を怠ることはできませんが、前の年とは少し流行のトレンドが異なるのかもしれませんが。

### 【検討すべき課題について】

#### ○病原体検出情報のフィードバックや発信のあり方について

- ・(委員より) ARIの病原体検出情報をまとめたグラフを見ると、検出される病原体は時期によって主流なものが異なっており、また病原体の種類も半数がインフルエンザ、コロナ、RSウイルスだという動向が見えています。こういった情報を活用したり紹介したりする方法を考えていくとよいと思います。また、百日咳のマクロライド耐性について、14検体中のうち13検体に変異していたという結果になっています。薬剤耐性菌が意外と身近なところにいることを知らない先生方もいらっしゃると思うので、何かの形でまとめて情報還元できるといいと思います。

#### ○愛知・名古屋アジア競技大会、アジアパラ競技大会(9月、10月)への備えについて

- ・(委員より) 開催に備えて、感染症の啓発や各自治体との連携について何か動きはありますか。競技会場だけでなく合宿などで滞在する人も一定数いると考えられますが、岐阜県では何か対応をする予定ですか。
- ・(事務局より) 医療機関に対しては、どこの国の方が来て、どんな感染症が持ち込まれる可能性があるか、事前に評価をしてお知らせをするべきだと思っています。
- ・(委員より) 大阪関西万博の際に、注意喚起や情報収集に関する指示があったと思いますが、その結果から明らかになった問題点に注意して準備を進めていくべきかと思っています。年度内に取りまとめなどが行われるのではないかと思いますので、そういう情報に注意しておくとういのではないのでしょうか。

#### ○インフルエンザ・COVID定点からARI定点への移行の影響について

- ・(委員より) 定点を変えたことで、去年までの数値と今年の数値の意味が変わってしまうのではないかという懸念がありましたが、実際はCOVID・インフルエンザについてはスムーズに移行できたかなと思っています。一方で医療機関によっては、ARIは診療科による報告、インフルエンザは病院全体での報告となるなど解析しにくい事例があると聞いています。他県の状況も踏まえて、次に検討いただくといいんじゃないかと思っています。

#### ○カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の届出基準変更による影響について

- ・(委員より) 届出基準となる検査方法を変更することで、重要なものだけを確実に把握するという意図

があったと思いますが、何か影響はあるのでしょうか。実数は減っていますか。

- ・（事務局より）少し減っている状況です。
- ・（委員より）大幅に減るのではないかとと言われていましたが、思ったほど減っておらず、メロペネムで検査したものについては逆に増えているような印象もあります。

#### ○HPのアクセス数について

- ・（事務局より）感染症情報センター関連で一番見られているのが感染症情報センターのトップページですが、インフルエンザが増えてくるとインフルエンザのページへのアクセスが増えるなど、感染症の流行やニュースがあると注目されているようです。県のページへの総訪問者数が約93万件に対して、感染症情報センターのトップページは3,000件前後です。
- ・（委員より）まだまだ伸びしろがあるということですね。
- ・（事務局より）その他の情報提供ページでは、閲覧数が数十件程度のページが散見されることが改めて分かりました。
- ・（委員より）かわら版なども結構時間をかけて作っていただいていると思いますが、もうちょっと効果的に発信できるといいと思います。記者発表する時に一緒に出すとニュースになり、普段見ない方でもついでに見てくれかもしれません。